

生きている地球を安心して実感できる 阿蘇山の防災体制

阿蘇山は、気象庁の火山監視・情報センターにおいて火山活動を24時間体制で監視している「常時観測火山」の47火山の一つです。地震計、傾斜計、空振計、GPS観測装置、遠望カメラ等、これらの観測・監視の成果を用いて火山活動の評価を行い、居住地域や火口周辺に危険を及ぼすような噴火の発生や拡大が予想された場合には「警戒が必要な範囲」(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)を明示して噴火警報を発表しています。火山観測により、噴火警戒レベル1~5を発表し、登山者(観光客)及び地域住民に伝えられます。

なお、過去の噴火を参考に、万が一火口付近において噴石があった場合に備え、火口周辺には現在、鉄筋コンクリート二重構造屋根の避難壕が15基設置されています。(1基収容人数60名)

■ 現在の監視体制(平成26年12月15日現在)

現在、噴火警戒レベルがレベル2となっており、火口周辺1kmの立ち入り規制が行われています(平成26年8月末よりレベル2継続)。立入地域周辺では、阿蘇火山防災会議協議会の監視員4~6名が火山活動及び立入禁止区域の監視警戒を行っています。観光客等への周知については、山上広場に設置されています防災行政無線を利用して注意喚起を行い、緊急時には監視員等がロープウェイ駅舎や民間施設に避難誘導を行う体制をとっています。また、緊急時の連絡体制も先日防災訓練を行い再確認もされています。

今のところ、噴火警戒レベル2ということで1kmの範囲を規制しており、山上広場(阿蘇山ロープウェイ乗り場前)では噴煙をあげる様子が見られる状況です。

ただし風向きによっては、火山灰等が山上広場にも降ることがありますので、帽子やマスク等をご持参いただいたほうがいいでしょう。

■ 阿蘇山

およそ27万年前以降、度重なる火山活動でできた阿蘇カルデラは九州中部にあり、東西約18km、南北約25km、面積約350平方キロメートルと、世界最大級の規模を誇ります。カルデラの中央部には、現在も噴煙を上げ続ける中岳をはじめとする阿蘇五岳(高岳、根子岳、杵島岳、烏帽子岳)と、多くの山体で構成される火山群「中央火口丘」があります。火山群の南北の麓には平坦なカルデラの底地が広がり、火山群と平地を取り巻く輪っか状の山「外輪山」があり、その外側にはなだらかな火砕流の大地を形成しています。「阿蘇山」という単体の山はありませんが、学術的にはこれらの外輪山まで含めて「阿蘇火山」と呼んでいます。



山上広場からみた中岳



草千里ヶ浜からみた中岳



火口避難壕

■ 「火山」で地球のダイナミックな活動を感じる、阿蘇世界ジオパーク!

阿蘇ジオパークには、活動を続ける噴火口(中岳ジオサイト)以外にも見所(ジオサイト)がたくさんあります。噴火口から少し離れた杵島岳や烏帽子岳などからは、噴煙を上げる中岳や、太古の巨大噴火による雄大な陥没地形(カルデラ)とそこに暮らす人間生活の風景を大パノラマで見渡せ、阿蘇火山の特別な環境に生きる植物など、火山地域ならではの豊かな文化、生態系を感じることができます。温泉や湧水も豊富で、いずれも噴火口から距離があり、変わりなく行くことができます。もっと詳しく阿蘇を知りたい方は、ジオパークの専門ガイド「ジオガイド」と一緒に阿蘇を巡ってみませんか?

詳しくは阿蘇ジオパーク公式HP: <http://www.aso-geopark.jp/>



阿蘇山の火山情報は、下記のホームページをご覧ください。
気象庁防災情報 <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
熊本地方气象台 <http://www.jma-net.go.jp/kumamoto/>(降灰予報)
阿蘇火山防災会議協議会 <http://www.aso.ne.jp/~volcano/>



記号の色と意味

● 噴石
内側の線は、現在活発に活動している第1火口から噴出した場合の到達予想範囲です。



● 噴石の位置

中岳火口(第1~第4火口)から噴石が放出された場合の到達予想範囲を外枠で示しています。

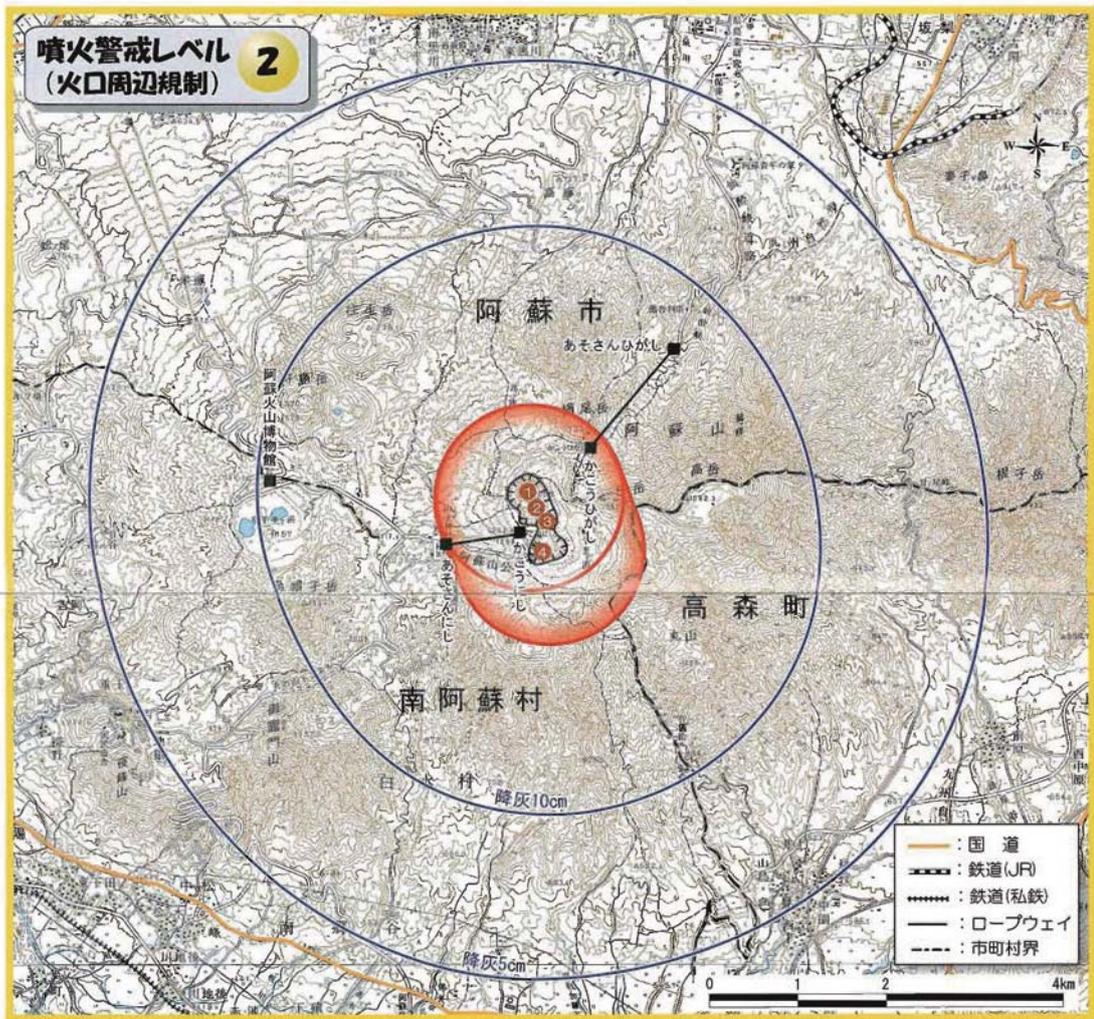
※こぶし大の石が飛んでくる可能性のある範囲を過去の噴火実績から予想しました。(火口から約1km)

● 降灰
火山灰が降り積もる恐れのある範囲



10cm以上
5~10cm

※ここでは、1977年(昭和52年)と同様の規模の噴火が1年間継続した場合に降り積もる火山灰の厚さを予想しています。従って、1回の噴火で積もる量ではありません。



噴石

噴火によって直径数cm~数10cmの岩石が火口から飛来する現象です



砂千里ヶ浜に散らばる噴石

降灰

火口から噴出した火山灰が降り積もる現象です。農作物が枯れたり、屋根に積もった火山灰の重さで家屋等が倒壊する危険もあります。

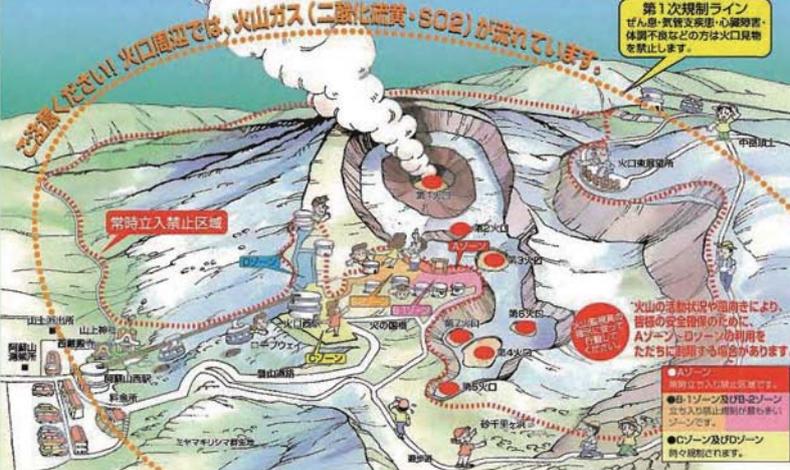


雲仙普賢岳から噴出し、降り積もった火山灰が風で舞い上がる島原市内

火山ガスによるゾーン規制

阿蘇山の火口周辺では火山ガスの状況に応じて立ち入りが規制されることもあります。火山ガスに関するアナウンスに注意して、緊急時には火口監視員の指示にしたがってください。ぜん息や気管支に疾患がある方、心臓が悪い方は登山を見合わせてください。規制状況は、阿蘇山火山防災会協議会のホームページでも確認できます。

(<http://www.aso.ne.jp/~volcano>)



熊本県土木部砂防課
気象庁ホームページより

噴火警戒レベル

予報警報	対象範囲	噴火警戒レベルとキーワード	火山活動の状況	登山者・入山者等への対応
火口周辺警報	火口から居住地域近くまでの広い範囲の火口周辺	③ 入山規制	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。
	火口から少し離れた所までの火口周辺	② 火口周辺規制	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命の危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	火口周辺への立入規制等。
噴火予報	火口内等	① 平常	火山活動が静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火口内への立入規制等。